

通常の学級の特別な支援が必要な児童への授業における支援

— 専科の担当者と担任との連携を通して —

特別支援教育班 築野奈津美(小学校教諭)

主題設定の理由と研究のねらい

通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童

集中が続かない
課題に取り組めない



友達とかかわりが
もてない

学習内容が身に付かないことが多い

専科の担当者



適切な支援が
できているか？

学級担任



支援が消極的に
なってしまう・・・

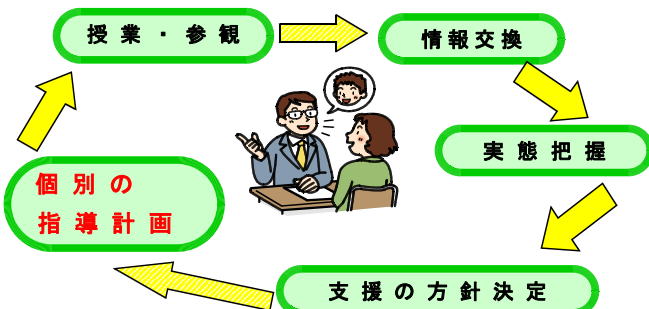
専科の担当者と担任がもっと連携を！

個別の指導計画を一緒に作成しよう！
授業に活用しよう！

児童が落ち着いて学習課題に取り組む
学習内容を身に付けることができるだろう

実践の概要

1 専科の担当者と担任の連携



2 授業の実践 理科「もののとけかた」

個別の指導計画を指導案に反映させた授業実践

本時の展開

過程	学習活動	時	学級への支援 ・留意点	特別な支援が必要な児童	
				■支援口追加支援	評価
つ	1 演示	5	○教卓に集め、BC の粉を溶かして見せ、 魔法の粉のイメージ を持たせる。	■よく見えるように教卓の近く に並べる。 ■粉の名前は伝えず、課題への 興味づけをていねいに行う。	・演示 実験を 見てい る。

手立て1

興味を引き出す課題提示
「6つの粉から魔法の粉
を探そう！」



対象児の姿

6つの粉を見つめ、「分
かった」とつぶやいた。
「魔法の粉をさがした
い」という意欲がもて、
授業に集中し、活動に
参加できた。

手立て2

視覚支援の活用

- ・活動カードで学習の見
通しを示した。
- ・具体物で説明し、板書
で押さえた。
- ・児童のノートと同じ用
紙に書いたものをスク
リーンに映した。

対象児の姿

混乱することなく次
の活動に進めた。
・安全に注意して実験
できた。
・正しい位置にもれな
くノートに写すこと
ができた。

手立て3

役割を明確にした班学習

- ・メンバーを考慮し役割
を明確にした班学習を
した。

対象児の姿

・自分のやるべきことが
分かり、友達と一緒に
活動できた。



成果と課題

成果

◎専科の担当者と担任が連携して個別の指導計画を作成することにより、対象児の課題を的確に見付け、課題に即した支援を考えられた。

◎専科の担当者も、個別の指導計画を活用することで、より積極的に支援ができた。その結果、対象児が、落ち着いて学習課題に取り組む姿が見られた。

課題

特別な支援が必要な児童にとって、授業が魅力的なことが何よりも大切であると感じた。その上で、特別な支援が必要な児童が陥りやすい困難な場面を想定し、きめ細かな支援を用意することが大切だ。